



天文台だより

銀河の森天文台
2020 冬号
Vol. 86

11/9、驚き！おもしろ科学実験2019を開催！



各実験コーナーの様子

「驚き！おもしろ科学実験2019」を11月9日(土)に開催しました。今年は新たに、置戸中学校石原校長先生と常呂中学校山中校長先生にそれぞれユニークな実験コーナーを出展していただきました。その他に陸別中学校ボランティア部、陸別町地域おこし協力隊、北見工業大学、足寄動物化石博物館等、たくさんの実験コーナーが並び、化石掘りやパズルをしたり、アイスやマシュマロの実験でお腹を満たしたり、子供たちは館内を何周もして楽しんでいました。

このイベントも今年で8回目を迎え、様々な方のご協力で大人気イベントに育っています。来年以降、実験コーナーを出展していただける方を募集中です。ぜひ、ご連絡ください！

10/26、北海道・星見人の会2019を開催！

10月26日(土)、北海道の星好きの方が集まり、交流を深める会「北海道・星見人の会 2019」を開催しました。38名の参加者があり、自己紹介やビンゴ大会で、親交を深めました。



同時開催の講演会は、「大規模深宇宙観測で紐解く～銀河進化 130 億年の歴史」という題で、北見工業大学澁谷隆俊先生に講演をしていただきました。

「館長コラム」上出洋介(牡牛座)

私たち人類が、この宇宙環境にふかふかと浮かんでいるのは、宇宙の歴史から見ればほんの一瞬の出来事です。今秋の自然の猛威は「激甚」でした。統計的に、100年以上に1回しか発生しないという猛烈な風雨が日本にもたらされたのです。アジア、ヨーロッパにも甚大な被害を起こしました。日本などは、中緯度にあるため、カラフルな変化に富む四季、ジェット気流など、独特の現象を楽しむことができる代償として、高緯度と低緯度の境界に非線形現象が発生します。この非線形現象こそ、天気予報に「今までに経験したことのない」とか、「生命に危険を及ぼす風雨が暴れる」などが、局所化された狭い場所に突然発達しがちです。高緯度と低緯度の両方の効果を受け、しかも成長率が高いという特徴がありますが、このほかにはないのでしょうか。



(上出洋介館長)

一方ボリスフ彗星(Borisov氏発見)も今期的话题をさらいましたね。太陽系外からやってきたとされるこの彗星は、双曲線軌道を持ち、太陽の重力の影響を受けない訪問者ということでユニークです。この彗星は、ここ銀河の森天文台でもはっきりと捉えることができました。

太陽の周りを回る星の軌道は基本的に楕円です。楕円は、2つの焦点を持っており、そのうちの1つが太陽の位置なのです。では、もう一つの焦点の役目は一体何なのでしょう。

「オーロラウィーク2020」

1/29～2/9、オーロラ生中継開催！

2020年1月29日(水)～2月9日(日)の期間、カナダ・イエローナイフからのオーロラ生中継を今年も開催します。「オーロラウィーク2020」では、現地で撮影されているオーロラの全天画像をリアルタイムで受け、天文台のプラネタリウムドームに投影します。

イエローナイフとの時差は、-16時間で、ちょうど天文台開館時間帯が現地の夜になります。現地が晴れていれば、高確率でオーロラが出現しています。

2月8日(土)午後2時から、上出館長が答える「オーロラ何でも質問コーナー」(45分程度)を開催します。

開催日時：1月29日(水)～2月9日(日)

中継：午後2時～8時まで(投影時間：1回15分程度)

※ 現地の天候や観測状況により中継時間が変わることがあります。

協力：The AuroraMAX Observatory at Yellowknife, NWT, Canada is operated by The University of Calgary, The Canadian Space Agency, and Astronomy North.

暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:54	16:03	5.9	10:39	21:56
1月 15日	6:51	16:17	19.9	21:26	9:57
2月 1日	6:38	16:39	7.2	10:13	23:43
2月 15日	6:21	16:58	21.2	—:—	9:53
3月 1日	5:58	17:17	6.5	9:06	23:37
3月 15日	5:34	17:35	20.5	—:—	9:01

天文行事&暦

1月

- 12/30-1/7 天文台休館日
- 4 しぶんぎ座流星群が極大 (PM5時 最大20個/時)
- 6 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 11 ○満月
- 20 大寒(24節気:太陽黄経300°)
- 25 ●新月
- 29-2/9 オーロラウィーク2020

2月

- 1/29-2/9 オーロラウィーク2020
- 4 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 9 ○満月
- 10 水星が東方最大離角 (光度:-0.6等, 離角:18.2°)
- 19 雨水(24節気:太陽黄経330°)
- 24 ●新月

3月

- 5 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 10 ○満月
- 6-22 2019年度銀河の森天文台写真展
- 20 春分(24節気:太陽黄経0°)
- 24 ●新月
- 水星が西方最大離角 (光度:0.3等, 離角:27.8°)
- 25 金星が東方最大離角 (光度:-4.4等, 離角:46.1°)

冬のイベント情報!!

☆2019年度銀河の森天文台写真展

銀河の森天文台で撮影した最近1年の写真を展示します。合わせて、皆様が最近1年で撮影された天体写真を公募し展示します。詳しい応募方法は天文台HPをご覧ください。

募集期間: 1月8日(水)~2月29日(土)

展示期間: 3月6日(金)~22日(日)

2020年太陽系天体みどころカレンダー

★黒線期間が見頃の時期、点線期間は短時間ですが見える時期になります

○:満月 ●:新月

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
太陽	○11 ●25	○9 ●24	○10 ●24	○8 ●23	○7 ●23	○6 ●21	○5 ●21	○4 ●19	○2 ●17	○2.31 ●17	○30 ●15	○30 ●15
水星												
金星												
火星												
木星												
土星												
天王星												
海王星												

天文台開館中、太陽系の天体たちが見頃となる時期をカレンダーにまとめました。2020年は、夏至である6月21日の午後から夕方にかけて部分日食が見られます。日食を観察する際には、日食メガネなどを使い安全に楽しみましょう!

毎年大人気の木星・土星、2020年の見頃は夏となります。火星は10月6日に最接近を迎えます。金星は、しばらく宵の明星として、日没後に明るく西の空で輝いており、6月4日に内合を迎えた後、明けの明星へと移り変わります。見頃の短い水星は、お昼から日没頃までが観察できる時間の目安となります。遠くの天王星は春先までと秋頃に、見頃を迎えます。秋は海王星も見頃になります。望遠鏡で、肉眼で、今年もたくさん空を見上げましょう。みなさまのご来館をお待ちしています!

ペッコカめぐり「恒星間天体がやって来た」

史上2例目の恒星間天体、ポリゾフ彗星が8月に発見されました。恒星間天体とは、文字通り恒星の間を移動する天体で、太陽系の外からやってきた天体です。恒星間天体第1号のオウムアウアは、太陽系から離れていくところで発見されたためにあまり多くの観測が出来ませんでした。ポリゾフ彗星は太陽に近づいてきているところで発見されたために長い期間観測することができるため、より多くの観測が出来ると期待されています。



いまのところポリゾフ彗星は太陽系の彗星と同じような見た目ということです。この天文台だよりが印刷されるころに、太陽に最も近づき15.5等くらいまで明るくなると予想されています。このあとどのような姿を私たちに見せてくれるのでしょうか? (中)

天文台からのお知らせ

☆ 12月30日(月)~1月7日(火)の期間は、天文台休館日となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp